

学位授与番号	医博甲第1467号		
学位授与年月日	平成13年3月22日		
氏名	易 双 勤		
学位論文題目	膵臓と大十二指腸乳頭の神経分布		
論文審査委員	主査	教授	三 輪 晃 一
	副査	教授	磨 伊 正 義
		教授	渡 邊 剛

### 内容の要旨及び審査の結果の要旨

膵臓に分布する神経走行は、今日においても詳細は不明である。また、大十二指腸乳頭はその機能の重要性にもかかわらず、神経支配の研究は乏しい。本研究では、解剖学実習に用いられた9体の膵臓および大十二指腸乳頭における実体顕微鏡下の精細な剖出と、手術摘出標本9例から作成した5mm巾の膵体尾部矢状断切片の抗S-100タンパク抗体を使用した免疫染色によって、臨床解剖学の観点から膵臓神経分布の形態を観察した。

得られた成績は以下のごとく要約される：

1. 腹腔神経叢から膵頭部に向う神経叢は、総肝動脈に沿って走行する系統と、門脈系背面を走行する系統に明瞭に分かれ、それぞれ前・後肝神経叢に分類された。
2. 後肝神経叢に由来し膵頭部に分布する神経は、近位と遠位の2つに大別され、近位で分岐する神経群が、吉岡らが命名した膵頭神経叢第1部に相当した。
3. 上腸間膜動脈神経叢に由来し膵頭部とくに鉤状突起に分布する神経は、主に下膵十二指腸動脈に伴走し、「膵頭神経叢第2部は幅広い」とする特徴は認められなかった。
4. 大十二指腸乳頭への神経分布は、後肝神経叢の総胆管に沿って下行する経路、膵頭神経叢第1部由来で主膵管に沿う経路、総胆管左側を下行し総胆管・膵管合流部に達する経路、そして上腸間膜動脈神経叢由来で下膵十二指腸動脈に沿う経路が観察された。
5. 膵体尾部への神経支配は、脾動脈に伴走する脾神経叢由来のほかに、前肝神経叢あるいは脾神経叢から直接膵体部に進入し膵管周囲に分布する神経と、上腸間膜動脈神経叢に由来し下膵動脈に伴行する神経が観察された。

本研究は、膵臓の詳細な神経解剖により、大十二指腸乳頭への神経経路が後肝神経叢と上腸間膜動脈神経叢由来で4つに分類されること、膵体尾部への神経支配は脾動脈神経叢以外に、直接腹腔神経叢から、あるいは上腸間膜動脈神経叢から下膵動脈に伴走する経路があることを明らかにしており、膵臓の形態解剖学ならびに臨床外科学上価値ある労作と評価された。